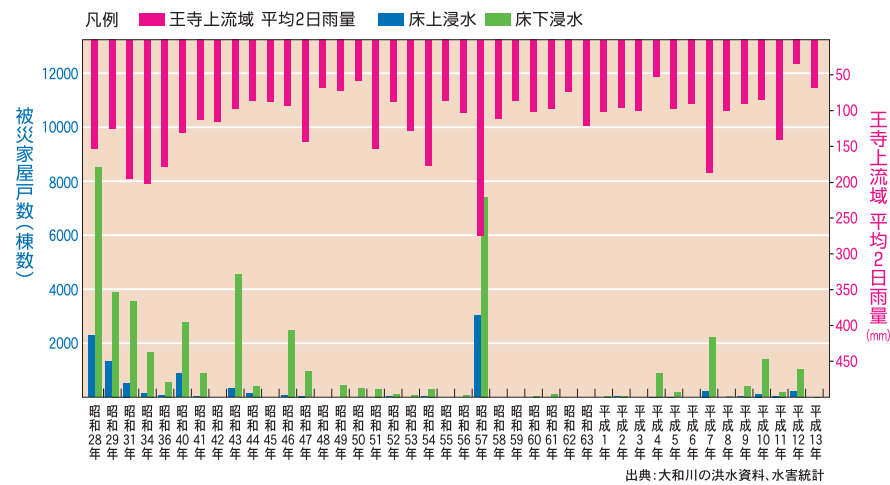


これまで、何度も浸水被害を受けてきました。

■ 支川が合流する地域で多くの浸水被害が発生

支川が多い奈良盆地では、雨が降ると放射状に広がった支川から本川をめざし一気に雨水が集まり、浸水被害が頻発しています。

■ 奈良盆地で起こった大和川の洪水被害と平均雨量の関係



平成7年7月の出水

平成7年7月3日の梅雨前線による大気的不安定で豪雨が生じ、田原本町や安堵町等の中南和地域に大きな被害が生じました。



昭和57年8月の出水

昭和57年7月31日～8月1日の台風10号、続いて8月3日の台風9号くすれの低気圧による洪水により、大阪府、奈良県とも流域全体で大きな被害を受けました。床上・床下浸水による被災家屋は約10,000戸数以上にのぼり、大和川流域で戦後最大の洪水災害になりました。



平成11年8月の出水

平成11年8月10日、熱帯低気圧により降り始めた雨は豪雨となり、奈良県の斑鳩町、安堵町、大和郡山市を含む多くの地域で浸水被害が生じました。

